

☆主の洗礼(1月10日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (イザヤの預言 55章 1-12節)

渴きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。

銀を持たない者も来るがよい。

穀物を求めて、食べよ。

来て、銀を払うことなく穀物を求め

価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。

なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い

飢えを満たさぬもののために労するのか。

わたしに聞き従えば、良いものを食べることができる。

あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。

耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。

聞き従って、魂に命を得よ。わたしはあなたたちととこしえの契約を結ぶ。

ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。

見よ、かつてわたしは彼を立てて諸国民への証人とし

諸国民の指導者、統治者とした。

今、あなたは知らなかった国に呼びかける。

あなたを知らなかった国は、あなたのもとに馳せ参じるであろう。

あなたの神である主 あなたに輝きを与えられるイスラエルの聖なる神の
ゆえに。

主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。

神に逆らう者はその道を離れ悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。

主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば、豊かに赦してくださる。

わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり

わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる。

天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたたちの道をわたしの思いはあなたたちの思いを、高く超えている。

雨も雪も、ひとたび天から降れば、むなしく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ種蒔く人には種を与え、食べる人には糧を与える。

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉もむなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。

第二朗読（使徒ヨハネの手紙Ⅰ 5章1-9節）

イエスがメシアであると信じる人は皆、神から生まれた者です。そして、生んでくださった方を愛する人は皆、その方から生まれた者をも愛します。このことから明らかなように、わたしたちが神を愛し、その掟を守るときはいつも、神の子供たちを愛します。神を愛するとは、神の掟を守ることです。神の掟は難しいものではありません。神から生まれた人は皆、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です。だれが世に打ち勝つか。イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。この方は、水と血を通して来られた方、イエス・キリストです。水だけではなく、水と血とによって来られたのです。そして、“霊”はこのことを証しする方です。“霊”は真理だからです。

証しするのは三者で、“霊”と水と血です。この三者は一致しています。わたしたちが人の証しを受け入れるのであれば、神の証しは更にまさっています。神が御子についてなされた証し、これが神の証しだからです。

福音朗読（マルコによる福音書 1章 7-11節）

洗礼者ヨハネはこう宣べ伝えた。

「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、

その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上がるとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

寒さが厳しくなってきましたね。火曜日ごろには雪も降るそうです。昔はこのような寒さが当たり前だったので、暖かさに慣れてしまった現代では稀なことなのではないでしょうか。どうか気をつけてお過ごしください。また東京近辺に緊急事態宣言が出されています。人込みを避けて感染予防に努めましょう。菊地大司教様からはお年を召した方はどうぞご家庭にてお祈りくださいとのメッセージが出されていますので、どうぞお体ご自愛ください。

今日は「主の洗礼」の祝日です。イエスがヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたことが記念されています。今日は私たち自身の洗礼を思い起こし、その恵みを感謝しましょう。

第一朗読（イザヤの預言 55章 1-12節）

主である神は人々に呼びかける。「渴きを覚えているものはみな、水のところに来るがよい」と。「耳を傾けて聞き、私のもとに来るがよい」と。「私に聞き従えば、よいものを食べることができる」と。ここから見出すことができるのは、主である神が常に私たちの飢えや渴きを満たすためにそばにおられるということ。イエスは言われた。「あなたたちが願う先に神は私たちの願いを知っておられる」と。願われているのは何か。それは「主を尋ね求める」こと、「主を呼び求める」こと。そして「主に立ち返ること」。これら主の言葉の力はどうか。「それは私の望むことを成し遂げ、私が与えた使命を必ず果たす」。「私はあなたたちの主である」。力強い神の言葉。

第二朗読（使徒ヨハネの手紙Ⅰ 5章1-9節）

ヨハネは「イエスは水と血を通して来られた方」と言っています。洗礼者ヨハネによって水で洗礼を授けられ、十字架の死によって血で洗礼を受けられた方なのです。これによってイエスは世に打ち勝たれたのです。私たちはこのイエスを信じています。イエスを信じるとはイエスが愛された方、父である神を愛し、イエスが与えられた掟を愛することです。イエスが与えた掟はイエスのように父である神を愛し、イエスのように隣人を愛し大事にすることなのです。それが洗礼によって私たちに与えられた恵みの力なのです。

福音朗読（マルコによる福音書 1章 7-11節）

マルコは福音の初めとしてイエスの洗礼の場面を持って来ます。イエスの語る福音、神の国はイエスが語り始める前から始まっていることを現わしているようです。そして、洗礼を授けることではなく、洗礼を受けることによってはじまると言っているようです。神の救いの計画、歴史は「主の降誕」すなわち、人間を救うためにはまず人として、その誕生を身に受けることによってはじまったのです。同様に、神の言葉を告げる福音の言葉は、水の洗礼を受けて、父なる神の喜びの言葉の祝福を受けて開始されたのです。この天からの声は聖霊の現れである鳩の形を伴っていました。これはこの後のイエスの宣教に当たってすべての点で主の霊、聖霊が力を発揮しておられる始まりであります。つまり、洗礼は聖霊の働きが私たちの中に確実に働かれるしるしなのです。ですから、洗礼は単なる印ではなく、霊の力を伴った恵みの力です。この恵みを強く意識しましょう。そしてイエスがこの洗礼を受けられたのち、ユダヤ全土に出て行かれ父なる神の心を人々に告げられたように、私たちも力を出して聖霊とともにみ言葉を伝えに、また愛の業の行いに出かけましょう。

足立教会はこのパンデミック以前から聖堂は解放されています。午後五時ごろまでならどなたでも聖体訪問ができます。なお、平日は幼稚園の活動が行われていますので、幼稚園児がお祈りのために使っている場合がありますのでご了解ください。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光